

長崎・野母半島 パワースポット発信塾





塾長 中村 奈美

■ 塾長コメント ■

長崎南部の半島は、出島ができる前からの歴史や文化、地質など非常に貴重な遺跡や自然が沢山あります。学術的に昔から研究報告されていながらも一般的にはあまり知られていません。

私は、祖父が僧侶で親族に宮大工や伝統工芸職人がいたので、幼少のころから、その土地、土地の建物や由来を教わることも多くありました。野母半島は、昔は高野山や国東半島のような一大霊場で、修行僧や行者がいたようだと、ぼんやり聞いたことがありました。後にこの塾活動でわかったのが、野母半島は鎌倉時代から京都仁和寺荘（日御崎荘）だったこともあり、奈良や京都に通じ、唐（中国）との交流が早くからあった貴重な場所でもありました。

数年前、久しぶりの長崎帰省で、江戸後期に創られた建物が無くなっているのを知り、胸が締めつけられました。

このまま黙って風化するのを見過ごすより、観光化に繋げることで、多くの人が野母半島を訪れる機会をつくりたいと考えました。そうして南部の貴重な価値を皆が知り、大事に継承して守ってほしい。そういう願いも込めて塾を立ち上げました。それに賛同し、

一緒に動いてくれたのが、塾生の皆さんです。全部で 30 名、半分は長崎出身や縁がある方、半分は長崎に縁はなくても愛を持っている方が、参加してくれました。

■ 塾の目的 ■

長崎野母崎にある魅力的な数々のスポットを情報発信することで、長崎への観光誘致に繋げ、地域活性化のきっかけを作りたいと考えています。

わかりやすい「パワースポット」というキーワードで、情報を整理し発信していきます。遠く離れていても東京塾だからできることは、発信力の高さです。豊かな人脈、情報の量や質の層が厚くそれらを生かして、新しい長崎観光の形を首都圏から発信することで、長崎南部の魅力を発信し、活性化につなぐ一つのきっかけを作ります。たとえそれが、僅かであろうとも、観光客が遠くから訪れるようになれば、地元の皆さまも長崎市南部の魅力や、可能性を再認識する機会となり、次へ繋がる動きができるのではないかと期待しています。野母半島は誇れる土地と思います。

残念ながら東京では「野母」の字も正しく読んでもらえません。そのため発信方法は、ネットより、手にとって見て名前を憶えてもらう所から、形となる物が欲しいと考え、長崎県も長崎市も野母半島という括りのパンフレットは、作っておらず、無いなら私たちが作ろうと動きだし、やっと出来上がりました。まずは、これを作るのが私たちの目標でした。

■ 塾の研究・活動内容 ■

①情報収集

活動初期、スポット探しで相談した小学校時代の恩師が、旧郡部の郷土誌や貴重な本を

沢山送ってきてくれました。驚いたのが、伝説と思っていたことが、歴史や文化、地層や自然と、あらゆる面で、学術的にも昔から研究がなされており、国や自治体が文化財に指定している物や建物もありました。

世界的にも誇れる所があるにも関わらず、一般的にはあまり知られておらず、これら歴史的背景や由来のドラマを知れば、ぜひ訪れてみたいと思う方が絶対にいると、塾活動にも弾みがつきました。

国会図書館を筆頭に資料収集し、塾開催ごとに塾生同志で資料を共有しました。塾生の皆さんは、地元にいると気が付かない、新鮮な視点での価値観やセンスを持っており、魅力ポイント、表現方法や手法、英訳和訳、年表作成、食文化からの切口を見つけてくれるなど、バラエティに富んでいて、とても勉強になりました。そして毎回、塾開催の場所にクリニックを使わせていただいた塾生の朝長ご夫妻。本当に皆さんあらゆる面で動き支えてくれました。

②現地調査、フィールドワーク

資料をもとに塾生の帰省や出張の機会に、写真撮影やインタビューへ行ってもらいました。

11月には、ちゃんと調べよう。電話だけではなく直接会ってお願いに行こうと一念発起した帰省に塾生4名も同行しました。こちらの無理な申出や時間に合わせていただいた地元の皆さまには、本当に多くのご協力をいただきました。どれが欠けても、パンフレットはできなかつたと痛感しています。私含め、塾生全員が本職の合間をぬって資料を探すのは、とても大変で、一年があっという間でしたが、知れば知るほど、皆に知ってほしい事も沢山でてくる野母半島の研究は本当に驚か

され、とても楽しかったです。

■ 塾活動の成果 ■

- ① パンフレット
- ② 野母半島の写真パネル展と物産展
- ③ 全国紙コラムでスポット紹介
- ④ 在京の長崎人、長崎ゆかりの方と共有

長崎・野母半島パワースポット発信塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 30 年		
6 月 3 日 (日)	東京瓊林会	開塾挨拶。現時点での資料提供 (1 回目)
6 月 8 日 (金)	東京オリパラ組織委員会	長崎市内にいる塾生とテレビ会議
6 月 23 日 (土)	東京ウィメンズプラザ	塾活動を周知 (30 年続いている勉強会)
6 月 30 日 (土)	国立国会図書館	資料収集、2 名同行
7 月 10 日 (火)	東京駅丸ビル内	長崎大学の学部長上京。協力依頼
7 月 17 日 (火)	瓊林会東京	レジメ、資料等のスキャナ保存 (機器使用)
7 月 31 日 (火)	青山ウィメンプラザ	企業等の役員クラスの人が集まる会にて周知
8 月 5 日 (日)	瓊林会東京支部	進捗報告・塾生より情報共有 (2 回目)
8 月 17 日 (金)	国会図書館	資料収集
8 月 18 日 (土)	EMパーク	長崎県教育委員会OB会で協力依頼
8 月 30 日 (木)	瓊林会東京	資料、文献等のPDF化、印刷
9 月 2 日 (日)	朝長クリニック	塾生報告・年表、資料共有 (3 回目)
9 月 9 日 (日)	武蔵小杉 スタジオハコス	和華蘭研究塾にて、野母半島紹介プレゼン 4 名講演
10 月 16 日 (火)	瓊林会東京	学術誌、本、書類等のPDF化および印刷、製本
11 月 3 日 (日)	武蔵小杉 スタジオハコス	長崎和華蘭研究塾 川原慶賀専門家 情報収集
11 月 16 日 (金) ~19 日 (月)	長崎市内	野母半島現地調査、協力依頼

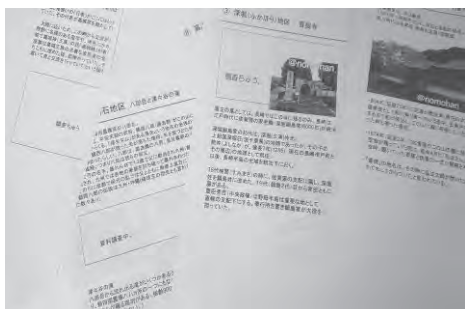
日 時	場 所	内 容
11月22日(木)	御茶ノ水大学図書館	資料収集
12月10日(月)	都内	塾打合せ、スポット選定(4回目)
12月16日(日)	朝長クリニック	スポット選定、構成打合せ(5回目)
12月23日(日)	朝長クリニック	打合せ(6回目)
12月27日(木) ~31日(月)	長崎市内	野母半島現地調査、協力依頼
平成31年		
1月4日(水)	長崎BTP	長崎史談会原田博二先生へ相談
1月14日(月)	朝長クリニック	情報共有・パンフレット製作打合せ(6回目)
2月8日(水)	長崎市東京事務所	イベント準備
2月11日(月)	三軒茶屋	長崎PR展 参加 野母半島物産販売
2月13日(水)	長崎市東京事務所	後片付け、処理
2月17日(日)	朝長クリニック	パンフレット打合せ、イベント振り返り(7回目)
3月21日(木)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり
3月22日(金) ~24日(日)	長崎市内	野母半島 現地調査・報告

■初期・情報収集

塾初日



塾生同士が顔合わせした日。塾の立ち上げ経緯、目的を周知。各塾生の自己紹介、現時点で知っている野母半島の資料により情報共有を行った。計画をたて、各自ができる範囲での情報収集の振り分けを行った。



この時点では、17か所のスポット候補。資料も少なく、調査中の文字ばかり。

資料提供あり、情報収集に弾みがつく



小学校時代の恩師は、文部省から派遣された社会学専門の教師で、川原大池の阿智姫伝説の本を執筆されたのを思い出し、実に35年ぶりに連絡してみたところ、郷土誌や研究資料をどっさり提供いただく。

とても、貴重で中には旧西彼杵郡の各町の郷土誌は重要であった。これらは、伝説と思っていたことが、歴史的、地質的にも多くの研究がなされており、既に国や自治体から文化財の指定を受けている所も多くあった事がわかり、活動に弾みがついた。次の情報収集の参考となり方向性が決まった。

国立国会図書館や、大学等の図書館



東京では、国立図書館はじめ大学図書館など、資料が豊富。地元では知ることもなかったであろう研究も含め、あらゆる資料が手に入る。休日は塾生とここに籠ることも多くなった。



塾を重ねるごとに資料も分厚くなってきた。



塾生同士が調べた情報共有を行ううちに塾の資料も豊かになってきて、スポット候補が35か所を超えた。

■ フィールドワークと共有



仕事や帰省で長崎に行った際に幾つかのスポットも取材してもらい、塾生からの報告共有を行った。

現地調査①



塾生の黒沢永紀さんは、香焼・深堀地区、脇岬観音寺、川原大池公園、鳴滝山観音寺など、いくつか訪問。

そこで撮影された写真を共有したところ、塾生も本当のパワースポットだと驚いていた。同時に実際に観光化した場合の可能性と、課題も述べられた。



写真は、スポットのイメージも沸き、重要であった。

改めて他のスポット

についての情報収集を行った。



現地調査②

地元長崎にいる友人、知人に頼みこみ、スポット候補地の写真提供をお願いしたり、写真が無ければ、現地まで撮影へ行ってもらようお願いしたことも。

そして、スポットの関係者の方へ縁を繋いでもらい、電話でのヒアリングにもご協力をいただいた。地元の方々の力強い協力や支援があってこそその情報収集活動であった。



八郎岳の写真。地元友人が塾のために標高590mの八郎岳を登り写し送ってもらった。

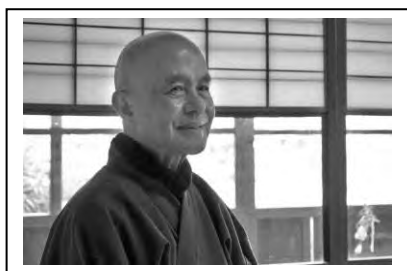
現地調査③

スポット候補地へ実際に訪問し、調査を行った。同行した塾生の中には、長崎訪問が初めてという人もいた。

やはり、現地に行く事で、現在のことがわかり、イメージとの違いの実感や、新たな可能性もを見つけるなど、多くの情報を得ることができた。

また、東京から向かう限られた時間のなか、現地スポットの関係者の方々には、本当に多大なご協力をいただいた。時間を合わせていただいたり、特別に写真撮影の許可をしてくれたり、ご縁を繋いでいただいたりと、私たちの活動を応援してくださり、多大なご協力を得ることができた。本当に感謝の言葉しか浮かばない。絶対により良い作品を作ろうと、決意新たに身が引き締まる思いがした機会でもあった。

1 日目：興福寺にて黄檗宗の開祖。隠元禅師の野母半島との関わりについて話を聞くことができた。中国との関わりが深かったことがわかってきた。



宮大工・伝統工芸職人の自宅へ

明治から昭和初期にかけて、野母半島の寺社仏閣を建立、再興に関わった有名な棟梁の弟子。土地の由来や文化についてヒアリング後に大量の資料をいただいた。



(匠が諏訪神社に奉納した獅子頭)

茂木

出島にも近かったことと、天草方面を向いていることから、多くの歴史が残っている町旧家も残っており、脇岬観音寺と、ここの潮御崎観音は行基菩薩の伝説がある。半島は、観音信仰の場であったことがわかる。



香焼・深堀



急に訪ねたにも関わらず、忙しいなか、手をとめ、寺の由来や歴史、地域の話を手際よく丁寧に教えていただいた。貴重なものを奥から出して、写真撮影も許可していただく。



深い歴史が多くあり、どれも驚くようなことばかり。どうやって伝えたら良いのか悩むことも。本当に知らないとなかなか聞けない話が本当に溢れていた。

川原・蚊焼

龍伝説の多い野母半島。伝統工芸である蚊焼鍛冶によるオブジェも見事であるが、あまり知られていない。外国人の反応は高い。



野母・脇岬

野母崎は半島の先で、その先にも樺島がある。長崎から車で約50分。海岸線はとてとても綺麗で、途中軍艦島を横目に見て走ることになる。その先には観音寺。ここの千手観音さまにお参りに昔の人々は歩いてきた。

そして川原慶賀が描いたと言われる天井の絵は本当に見事なもので、これを何とか見たいのか。と思う。今回、ご住職にも塾の主旨はお伝えして特別に撮影もさせていただいた。同時に裏エピソードも聞くことができ面白かった。

これらスポットをまとめる事で、たっぷり楽しめる場所は沢山あり、まだ埋もれていると思えばしるが大きいと思われる。



高浜地区

約 180 年の時を超えて戻ってきた奇跡の銅製のお地藏様。高浜にはこういうエピソードを持つお地藏様もおられた。

頭を叩かれて頭部がつぶれていながらも、健気に動じず立って見守る姿はこれだけで、皆に愛されそう。地元の皆さまに大事にされてきただろう。と、思う。



貴重な文化財の撮影や、資料をいただくなど本当にありがたいご協力を皆さまにはいただきました。期待もしていただきました。

大切に。慎重に。多くの人に素晴らしさをきちんと伝えたいと強く心に思いました。

■ 情報整理 検証・監修依頼

幾つもの資料を集めた中から、スポットの絞りこみを行いました。

先人たちから脈々と地域の皆さまが大事にしてきた全てのスポットを軽々しく紹介したくなく、これには専門家の先生に相談したいと大学の担当教官に聞いてみたところ、長崎史談会会長の原田博二先生のお名前をあげられました。実は、どのスポットの方からもお名前をお聞きしていたので、ご無理を申してお願いに押しかけ相談させていただきました。

先生は、私たちの塾活動をじっと聞き入り、君たちの活動は面白いと、年末年始の忙しいなかで、二度もお時間を作ってもらえ、細かく指導していただきました。目も当てられない位、修正箇所があったことや、目が覚めるような事も沢山教えていただきました。本当にありがたかったです。



■ 首都圏より情報発信

セミナー

和華蘭研究塾にて、野母半島の紹介。
長崎出身の方もおられましたが、スポットの、殆どを知らない方が多くおられました。

約 40 人程参加

講師：

中村奈美・黒沢永紀・柏原久美子・藤馬寛剛



全国紙コラムにて紹介 (2回)

塾生の中村直美さんが、サンケイビズのコラムにて「蚊焼鍛冶」と「深堀恵比須」を紹介しました。YAHOO動画とオーストラリアのサイトでも紹介され、海外サイトのヒットが一日で 1600 件あり、外国の人が興味を持つこともわかりました。



長崎PR展への出店

野母半島のパネル展示と物産品販売

スポットの**写真パネル**をつくり展示しました。

野母半島の物産販売を行いたく、あらゆる所へ連絡し、地元の銀行より紹介をいただき、バラエティ豊かな商品の販売ができました。またこれにあわせ**簡易版パンフレット**をつくり多くの方へ配布しました。



世田谷区三軒茶屋



沢山の方が来られ、興味を持ってもらえました。物産は、当然、即完売です。気がつけば、野母半島には、100年近く続いている老舗が多いことがわかりました。それは、かなり選定ポイントとして高かったと思われま

出品リスト（物産名/販売元・地区名）

- ① ごま豆腐/観月・野母崎
- ② 満ん月/桂風堂・蚊焼
- ③ 恵のみそ/恵みの会・香焼
- ④ ゆうこう/深堀地区まちづくり推進協議会・深堀
- ⑤ リサイクルキャンドル/㈱TeamEN・蚊焼
- ⑥ からすみ/藤井からすみ・茂木
- ⑦ 一口香/茂木一まる香本家・茂木
- ⑧ 長崎チャーめん/熊製麺・高浜



簡易版パンフレット 8ページ観音折り 私たちにとって、初めてのパンフレット。形になり感動しました。

瓊林会東京（長崎大学経済学部・同窓会）への寄稿

長崎大学経済学部の同窓会東京支部が発行する同窓生向け会報誌へ野母半島の紹介文（9頁）を寄稿しました。関東にいる大先輩方より、“リゾート地としか考えていなかった野母半島の印象が変わった。”“母校訪問と共に久しぶりに長崎へ行きたくなった。”という声がありました。またこれをきっかけとして、同窓生の別団体から、セミナー講師依頼や問い合わせもありました。



パンフレット（完全版）作成

原稿作成

スポットを選定し、原稿を各担当で振分めました。スポットを脇岬・観音寺と、4つのカテゴリーに振り分けました。

・観音寺（御崎道）

1. 唐（中国）由来のパワースポット
2. 武家由来のパワースポット
3. キリシタン由来のパワースポット
4. 自然崇拜由来のパワースポット

地図、年表、写真も各担当に振分けました。

監修依頼

長崎史談会の副会長である村崎春樹先生に監修していただきました。先生は戸町出身で、戸町在住。南部をこよなく愛する専門家です。何度も電話で確認しボリュームのある修正のやりとりを行い、やっと完成しました。



伝習所まつり 3/21

田上市長へお渡ししました。



パネルを展示し、多くの方が、見て知らないところばかりと驚かれていました。またパン

フレットも手にとり南部の方から、とても喜んでもらえました。



長崎新聞で紹介

完成（成果物）

長崎・野母半島 パンフレット

A5中綴じ20ページ



野母半島パネル

縦 90×横 55cm

1・メインパネル（折りたたみ式（W:2,700 H:500）

2019年2月11日三軒茶屋PRイベント用 製作パネル



2・紹介写真パネル（自立式（W:525 H:900）×10点



3・商品写真パネル自立式（W:200 H:200）×16点



今後は、都内でこれらを用いて、野母半島の魅力を伝えていきます。実際に旅行客に足を運んでもらえるよう関係機関の方々や、地元の多くの皆さまと連携し活動していきます。

塾生感想

■野母崎パワースポット発信塾に参加して

友人の中村奈美さんから野母崎の情報を発信する活動をやると聞いて、私は色めき立ちました。是非、手伝わせて頂きたい。

私は佐賀県嬉野町出身ですが、海星中学2年間の寮生活、今は亡き長崎高等予備校（駅前大学）1年間、そして長崎大学は7年も在籍したので、合計長崎に10年住みました。

もともと海水浴が大好きで野母崎の脇岬、高浜、岳路では何度も泳ぎました。特に卒業延期を食らった7年目はヒマだったので、毎日のようにバイクで野母崎に出かけました。特に岳路海水浴場から見る夕日の美しさは今でも忘れられません。

関東在住も30年超えましたが、湘南や房総の海に比べたら比較にならないくらい美しい海、近海で獲れる海産物、そして何より野母半島が海外文化の玄関口であったことを紹介する作業をお手伝いできることは、この上ない喜びでした。

塾長および皆様のおかげで立派なパンフレットができました。まだまだ紹介しきれないものも沢山あります。多くの人に情報が伝わって、野母半島の魅力が伝えられたらこれほど嬉しいことはありません。どうぞ皆様、野母半島へ足を運んで頂きたいです。

（朝長 修）



私は長崎の戸町で生まれ育った。

名のごとく長崎湾の扉みたいな位置である。南部野母崎半島の入り口のように感じてきた。幼い頃から私の遊び場は金鏑治兵衛さんの隠れていた洞穴と手袋岩だった。大人になって長崎を離れてみると、なんて面白い土地に生まれて育ったのかと驚いた。

まだまだ野母崎は奥深く観光のお客様はもちろんのこと、じげもん達にも知ってほしいと思える場所が多い。この塾を通して知らなかったことを一つ一つ紐解いていきたい。

（柏原久美子）



私は長崎にゆかりのある者ではなかったのですが、ご縁あって入塾し、今では長崎の食文化の魅力の虜です。日本の近代化の玄関口として重要な長崎。今後の進展に期待しています。

（マイオラーノゆかり）



■長崎・野母半島パワースポット発信塾に参加して

私は大阪出身、東京在住ということで長崎は中学校の修学旅行で訪れて以来、ご縁のない土地でした。それでもなぜか長崎に関連した文化、歴史、食等には関心があり、自分でもどこからその関心が来るのか不思議に感じておりました。今回、ご縁をいただき、長崎・野母半島パワースポット発信塾に参加し、塾長をはじめ、長崎出身の塾生のみなさまのレクチャーをお聞きして、日本にとって長崎が歴史的観点、文化的観点から見て、いかに重要な土地であるかを学び、長崎が人を魅了する理由が分かった気がします。

長崎観光と聞くと、長崎市内の名所ばかりが思い浮かんでおりましたが、長崎・野母半島パワースポット発信塾に参加したことで、神秘、歴史、自然が息づく野母半島に旅をしたくなりました。同時に、野母半島の貴重な遺産や文化がしっかりと保護され、伝承されることを切に願います。

塾長をはじめ、塾生のみなさまには、今回このような貴重な学びの機会を与えていただき感謝しております。（八杉裕美子）



野母んあじ

長崎には高校の修学旅行で1度訪れただけの身で、本塾に参加しました。活動をご一緒する中で、わずかな思い出と本や映像でしか知らなかった長崎が、どんとんリアリティを持って感じられるようになりました。

おいしい食べ物の数々には特に魅了されました。そして、ひっそりと息づいた歴史ある文物。もっともっと触れてみたい。そう心から思いました。

昨年、中村さんにご案内頂いた長崎旅行は、表面的観光では味わえない魅力がありました。今回このようなご縁を頂きましたこと、心より嬉しくありがたく存じています。1年が経とうとする今、私が感じた長崎/野母半島の魅力を、より多くの方に知って頂きたいとの思いを新たにしております。

これからも、どうぞ、よろしくお願ひいたします。（木本志帆）

■西岸地区萌え



塾長を含めて、今回で4つ目の参加となる伝習塾ですが、その度にいつも思うのは「長崎は宝の山だなあ〜」ってということ。しかも、それらの多くが持ち腐れとなっているのも痛感します。もっとも、あまりのアイテム多さに、そうならざるをえないのもいたしかたないでしょうが。

今回参加させてもらった野母半島パワースポット塾では、これまで知らなかった長崎を体感できて、とても感謝しています。偶然にも昨年は『池島散策と軍艦島周遊ワンデイツアー』のガイドで毎月長崎へ通ったので、取材をかねて野母半島の多くのスポットを訪れることができました。

異界への出入口のような鳴滝観音寺やカクレキリシタンの岳路神社など、今回初めて訪

れて、感銘を受けたスポットはたくさんあります。「市街地は最後の到達地点で、長崎の成り立ちは野母半島にあり」という塾長の言葉を実感しました。たしかに野母半島は深く、同時にそれらの多くが、あまり知られていないのは残念です。軍艦島の取材で最初に訪れていた頃は、野母崎の方々に本当にお世話になったので、今回の野母半島パワースポット塾への参加で、その恩返しが少しできたかもしれせん。

そんな取材の中で、特に印象深かったのは西岸地区でした。この塾では対象としなかったエリアですが、女神大橋の麓に佇む神崎神社は、お賽銭を借りることができる秘境感満載のお社。奥立神の櫻谷神社には、立神という地名の由来ともいわれる巨立する岩神様が鎮座していました。海防で寝ずに番をする間、ずっと見ざるを得なかった鼠(寝ず見)島。外国艦隊が恐れをなした、鍋島直正建造の四郎ヶ島の要塞。世界遺産にはならなかったけど、市内で4番目に古い神ノ島教会と高鉾島。

岸地区の謎解きをしていきたいと思っています。
(黒沢永紀)

■野母崎半島を盛り上げる一歩目

野母崎半島は、NCC・NHK勤務時に長崎市に住んでいた4年間、取材やドライブに数回行った程度で今回塾に参加して初めて知る事ばかり。長崎市在住の間にもっと巡っていたら良かったと後悔するほど興味深い場所でした。

7年ほど前から産経新聞の経済紙「フジサンケイビジネスアイ」と総合サイト「サンケイビズ」へ年3回コラムを寄稿しており、長崎県内の地域振興への取り組みや物産・伝統工芸品など紹介しています。(※2016年3

月には、長崎市伝習所塾の取り組みについても同紙にて紹介しています)野母崎半島パワースポット発信塾で塾長の中村奈美さんから配られる野母崎半島のスポットの数々が、私にとってはネタの宝石箱の様でした。

残念ながら、紙面への掲載は昨年7月で終了し、野母崎半島についてのコラムは、「サンケイビズ」掲載のみとなりましたが、今回は塾生として、「蚊焼鍛冶技術による南蛮ボード」(2018.11.3掲載)と「深堀えびす」(2019.1.19掲載)を紹介する事が出来ました。また、コラム記事には日本語版と英語版の動画が付帯されるため、その動画も制作しています。動画は、長崎市をはじめ長崎県物産振興協会よりご提供いただいた写真を使用し制作しました。英語版は、インバウンドを目的としても付帯・制作している為、産経新聞社関連サイトのみならず、「Yahoo!映像トピックス」サイトやオーストラリアのサクラTVのサイトにも動画がアップされるので、深堀恵比須の動画は、1日で1600のイネが付いたと連絡もありました。外国人が興味を惹かれる観光資源に成り得るとの確証ともいえるかもしれません。

今回の成果物であるパンフレットに関しては、コラムで取材したことから、「武家由来のパワースポット」の文面を担当しました。さらに、蚊焼包丁と深堀恵比須の動画再編集し、QRコードを作成し、本成果物パンフレットに掲載されており、スマートフォンやタブレットで読み取れば、日本語ナレーションと英字幕付きの動画が観られる仕組みです。本業のアナウンスや動画制作のノウハウなど自身のスキルが活用できたページを作る事で国内外から多くの方を呼び込める一助になれば嬉しいです。
(中村直美)



蚊焼鍛治



深堀恵比須

■長崎・野母半島パワースポット塾 1年目の活動を終えて

去年（平成30年）5月頃、塾長の中村奈美さんにお声がけいただき、この「長崎・野母半島パワースポット塾」に参加させていただくことになりました。

私自身、佐世保市の小中高校を卒業しているのですが、小学校2年～4年の1学期までを三和町の蚊焼で過ごしたことがあり、とても懐かしい土地で、お声をかけてくれた中村塾長はその時の同級生で、喜んで参加させていただくことになりました。

ただ、実際に活動を始めると私は土地勘も知識もなく、何をお手伝いできるのか。最初はお話を聞くだけにとどまっておりました。数ヶ月が経ち、皆さんの情報がまとまってきた段階で、「パンフレットを作成してほしい」と塾長より依頼がありました。私の本業はデザイン・ディスプレイ等ですので、ようやく自分にもお手伝いできることができた、とても嬉しかったです。

他の塾生の皆さんが集めた資料や、写真を受け取ってみて、初めて「こんなにも歴史的価値がある場所だったとは！」と驚きました。中村塾長も、一つ一つの資料を広げながら、丁寧にとても熱い思いで語ってくださり、これは、きちんとこの想いも載せるようなパンフレットにしなくては。と身の引き締まる思いになりました。

中でも、中村塾長とともに過ごした地名。

弘法大師様がおこもりになり、弘法大師が焚いたお香のかぐわしさから「香焼」という素敵な地名がついたこと、さらにそのお香が漂ってきた地域に蚊がいなくなったので、「蚊焼」という地名になったこと（この部分はパンフレットの記載はされておられません）。地元の駐在をしていた父も知らなかったような話がまだまだこの地域には埋もれているんだという再認識でした。歴史的事実に基づく逸話や神話など、風化してしまわないようしっかりと後世に伝えていくとともに、広く知っていただくことで、地域の独自性をより強め、魅力ある町に育っていくのだと思います。

この「長崎・野母半島パワースポット塾」の活動のお手伝いをする中で、より一層、長崎野母半島の魅力を知ることができると確信し、2年目の活動もワクワクしています。

私には知識はありませんが、仕事柄、パンフレットなどのデザインやPRブースの提案や製作などお手伝いできることがあると思いますので、ぜひこの機会に野母半島の魅力を知るとともに、PR・周知のお手伝いができれば嬉しく思います。（中尾和美）



長崎・野母半島パワースポット発信塾

塾長	中村 奈美				
1	朝長 修	21	朝長 由美	41	
2	高山 美枝子	22	鋤塚 和隆	42	
3	木本 志帆	23	伊藤 嘉朗	43	
4	柏原 久美子	24	桃園 貴美子	44	
5	田谷 信一郎	25	田中 美枝子	45	
6	中村 直美	26	安岡 昌彦	46	
7	中尾 和美	27	荻野 憲之	47	
8	マイオラーノ ゆかり	28	橋本 聖子	48	
9	黒沢 永紀	29	朝永 恵美子	49	
10	酒井 透	30		50	
11	八杉 裕美子	31		51	
12	久松 絵理	32		52	
13	藤馬 寛剛	33		53	
14	能美 弓子	34		54	
15	能美 清	35		55	
16	清水 久和	36		56	
17	春平 祐一郎	37		57	
18	金田 良一	38		58	
19	中島 敏隆	39		59	
20	福田 博之	40		事務局員	東京事務所 稲田 勝次郎